

<添付資料#9B>

年次報告書・ニュースレター配布先

機構の目的が大学院大学の設置準備と、国際的に卓越した科学技術に関する研究を行うことであることをかんがみ、主要なステークホルダーである関係府省と地方公共団体、研究機関に対して、また、大学院大学への関心を高めることを目的に機構主催のワークショップ等の参加者に対しても年次報告書とニュースレターを配布した。

1. 関係府省
内閣府沖縄振興局
文部科学省高等教育局
内閣府独立行政法人評価委員会委員

2. 地方公共団体
沖縄県
沖縄科学技術大学院債学設置促進県民会議会員
恩納村役場
うるま市
沖縄市
名護市

3. 研究機関
独立行政法人理化学研究所
独立行政法人科学技術振興機構
独立行政法人日本科学技術振興財団

4. 機構内部
運営委員
スペシャルアドバイザー
代表者研究者
研究員
職員

5. その他
機構発足2周年記念イベント参加者
国際ワークショップ・サマーコース参加者
就職説明会参加学生
訪問者

<添付資料#11A-a>

	開催日	テーマ	主催者	講演者	開催地	参加者
1	2007年5月14日	OISTスペシャルセミナー 「能動的学習における神経および分子メカニズム」	銅谷賢治 (OIST)	ジョン・バイン(テキサスメディカルスクール大学ヒューストン校)	OIST OITC セミナールーム	
2	2007年8月27日	OISTスペシャルセミナー 「意思決定から依存まで：海馬と線条体における新たな神経生理学的観察からの推定」	銅谷賢治 (OIST)	ディヴィッド・レディッシュ (ミネソタ大学)	OIST IRP セミナールーム	
3	2007年11月16日	OISTスペシャルセミナー 「線虫の神経ペプチド：Ascarisの神経システム-単純な神経システム」	ロバート・シンクレア (OIST)	アンソニー・ストレットン (ウィスコンシン大学マディソン校)	OIST IRP セミナールーム	
4	2007年2月7日	OISTスペシャルセミナー 「注意欠陥多動性障害」	ゲイル・トリップ (OIST)	ジョセフ・サージャント (フリー大学)	沖縄県南部医療センター	
5	2007年3月18日	OISTスペシャルセミナー 「大脳皮質ネットワークのグローバル組織：トポロジー、レイアウト、発達、機能」	ロバート・シンクレア (OIST)	クラウス・ヒルゲタグ (ヤコブ大学)	OIST IRP セミナールーム	
6	2007年4月24日	「生物種における学習について」		アンソニー・ベル (カリフォルニア大学バークレー校)	OIST IRP	
7	2007年4月24日	「系統別インデルパターンの定量的評価と哺乳動物（有胎盤類）のルーツ」		ピーター・ワデル (南カロライナ大学)	OIST IRP	
8	2007年4月25日	「ネットワーク社会の新しい検出方法」		アンドレアス・ドレス (CAS-MPGパートナー・インスティテュート・フォア・コンピュテーショナル・バイオロジー、上海)	OIST IRP	
9	2007年4月25日	「ピアノ、プラント、パスタ：数学への影響力」		ロバート・アンダーセン (連邦科学産業研究機構)	OIST IRP	
10	2007年4月26日	「嗅覚」		ピーター・マンバーツ (ロックフェラー大学)	OIST IRP	
11	2007年5月10日	「酸性リン脂質欠損の大腸菌における遺伝情報制御の影響」		長濱秀樹 (埼玉大学)	OIST OITC	
12	2007年5月14日	「能動的学習における神経および分子メカニズム」		ジョン・バイン (テキサスメディカルスクール大学ヒューストン校)	OIST OITC	

	開催日	テーマ	主催者	講演者	開催地	参加者
13	2007年5月30日	「マイクロRNAのもつ不変性から幹細胞まで」		ジョナサン・ミラー (ペイラー医科大学)	OIST IRP	
14	2007年7月13日	「テクニカルセミナー」		新井紀夫 (GE横河メディカルシステム)	OIST IRP	
15	2007年7月18日	「何がドーパミン細胞の活動を止めるのか？」		ブライアン・ハイランド (オタゴ大学)	OIST IRP	
16	2007年8月6日	「スパイクニューロンを使用したベイズ推論」	ジェフ・ウィッケンス (OIST)	マイケル・ポーリン (オタゴ大学)	OIST IRP	
17	2007年8月10日	「テクニカルセミナー」		新井紀夫 (GE横河メディカルシステム)	OIST IRP	
18	2007年8月24日	「学習と記憶：エストロゲン関連遺伝子による社会的な性的行動および情動的行動の制御」	遠藤昌吾 (OIST)	小川園子 (筑波大学)	OIST IRP	
19	2007年8月27日	「意思決定から依存まで：海馬と線条体における新たな神経生理学的観察からの推定」	銅谷賢治 (OIST)	ディヴィット・レディッシュ (ミネソタ大学)	OIST IRP	
20	2007年9月4日	「結び目理論から分子生物学まで」	ロバート・シンクレア (OIST)	ナファー・チビリ (韓国科学技術院)	OIST IRP	
21	2007年9月5日	「神経樹状突起のダイナミクス」	クラウス・シュティーフェル (OIST)	アシャ・ゴピナサン (ジェンサイeテック社)	OIST IRP	
22	2007年9月5日	「権力と指導力への道—科学・技術・工学・数学の分野で女性が直面する問題」	クラウス・シュティーフェル (OIST)	アシャ・ゴピナサン (ジェンサイeテック社)	OIST IRP	
23	2007年9月12日	「歯状回における大人の歯の神経発生の機能解析」	クラウス・シュティーフェル (OIST)	ピーター・アップルビー (インスティテュート・フォア・セオレティカル・バイオロジー)	OIST IRP	
24	2007年10月12日	「自然勾配による政策勾配強化学習」		森村哲郎 (OIST銅谷ユニット)	OIST IRP	
25	2007年10月18日	「Tau Leap演算法による上皮成長因子受容体ネットワークの数理モデル」		ミシェル・ペティグリュウ (サイエンスOps社)	OIST IRP	

	開催日	テーマ	主催者	講演者	開催地	参加者
26	2007年11月14日	「分裂酵母におけるオルガネラ再生の細胞周期制御機構」	柳田充弘 (OIST)	ジェレミー・ハイアムズ (マッセイ大学)	OIST IRP	
27	2007年11月19日	「より高度な神経補完システムの構築」	網谷賢治 (OIST)	バイロン・ユー (スタンフォード大学)	OIST IRP	
28	2007年11月21日	「アクチンフィラメントの先端部分におけるキャップ複合体の形成」	ファデル・サマテ (OIST)	アヤ・コツコーヴァ (ニュージャージー州立医科大学)	OIST IRP	
29	2007年11月21日	「大脳皮質視覚野における情報処理と神経同調」	クラウス・シュティーフェル (OIST)	ダンコ・ニコリック (マックス・プランク・ブレインリサーチ研究所)	OIST IRP	
30	2007年11月21日	「色と文字との共感覚の連合メカニズム」	クラウス・シュティーフェル (OIST)	ダンコ・ニコリック (マックス・プランク・ブレインリサーチ研究所)	OIST IRP	
31	2007年11月30日	「幻覚の数理生物学」		ピーター・J・トマス (ケースウエスタンリザーブ大学)	OIST IRP	
32	2007年12月3日	「真核生物の濃度勾配感受性の情報理論的解釈」	クラウス・シュティーフェル (OIST)	ピーター・J・トマス (ケースウエスタンリザーブ大学)	OIST IRP	
33	2007年12月6日	「アオリイカの自己鏡像への反応」	クラウス・シュティーフェル (OIST)	池田謙 (琉球大学)	OIST IRP	
34	2007年12月12日	「作業記憶に基づく報酬課題および3要素へ学習則のドパミン調節における神経ネットワークモデル」	ジェフ・ウィッケンス (OIST)	アダム・ボンジ (理化学研究所脳科学総合研究センター)	OIST IRP	
35	2007年12月20日	「発達障害児をもつ家族・もたない家族の比較研究－日系移民とアメリカ人」	ゲイル・トリップ (OIST)	池田圭子 (スタンフォード大学)	OIST IRP	
36	2008年1月10日	「トロポミオシン酵母－結晶化と結晶構造解析」	ファデル・サマテ (OIST)	ウラジミール・メシュチェリャコフ (理化学研究所播磨研究所)	OIST IRP	
37	2008年1月15日	「小脳長期抑圧において短寿命シグナルを長寿命シグナルに変換するポジティブ・フィードバックメカニズム」	エリック・デ・シュッター (OIST)	田中敬子 (デューク大学病院)	OIST IRP	
38	2008年1月28日	「顔認識における脳機能解析1」		ドリス・ツァオ (プレーメン大学)	OIST OITC	

	開催日	テーマ	主催者	講演者	開催地	参加者
39	2008年2月1日	「亜硝酸依存性窒素酸化物の 産生メカニズム」	クラウス・シュティーフェル (OIST)	山崎秀雄 (琉球大学)	OIST IRP	
40	2008年2月5日	「顔認識における脳機能解析 2」		ウィンリッチ・フレイウォルド (プレー メン大学)	OIST OITC	
41	2008年2月5日	「類似性の基本パターン」	ロバート・シンクレア (OIST)	グンナー・ウィルケン (ミュンスター大 学)	OIST IRP	
42	2008年2月6日	「TRPチャネルとマグネシウム 恒常性調節」	丸山一郎 (OIST)	岩崎幸一 (ノースウェスタン大学)	OIST IRP	
43	2008年2月18日	「小脳のブラックボックスの 解明」	エリック・デ・シュッター (OIST)	マリルカ・ウーシサーリ (理化学研究所 脳科学総合研究センター)	OIST シーサイドハウス	
44	2008年2月27日	「ショウジョウバエの求愛と 攻撃をモデルとした質量分析 と行動神経科学の連携」	ロバート・シンクレア (OIST)	ジョアン・ユウ (ハーバードメディカル スクール)	OIST OITC	
45	2008年3月3日	「目と耳にある特別なシナプ ス」		エンリケ・フォン・ガースドーフ (オレ ゴン保健科学大学)	OIST IRP	
46	2008年3月6日	「最短コンピュータープログ ラム」		ジェイソン・トイチュ (RAND社)	OIST IRP	
47	2008年3月19日	「ダイヤモンドツイン-離散幾 何解析のアプリケーション」		砂田利一 (明治大学)	OIST IRP	
48	2008年3月25日	「ニコチン依存症のニューロ ダイナミカルモデル」		ボリス・グッキン (ENS-パリ)	OIST IRP	
49	2008年3月27日	「進化生物学におけるスピン システムの統計力学から応用 へ」		ディーター・メイヤー (クラウスター 技術大学)	OIST IRP	
50	2008年3月28日	「ネットワークと単一細胞活 動への結合振動子アプロ チ」		ボリス・グッキン (ENS-パリ)	OIST IRP	
51	2008年3月31日	「視覚における神経活動と S TD」		マーク・ロッサム (エディンバラ大学)	OIST IRP	

<添付資料#11A-b>

	開催日	テーマ	主催者	講演者	開催地	参加者
1	2007年4月20日-22日	国際ワークショップ 「逆問題と生物学」	ロバート・シンクレア (OIST) クラウス・シュティーフエル (OIST)		OIST シーサイドハウス	講演者 9名 (海外4, 日本5) 参加者22名 (海外17, 日本5) 合計 31名 (海外21, 日本10)
2	2007年6月26日-7月11日 (※終了予定は7月12日だったが、台風の影響をさけるため11日終了。)	国際ワークショップ 「沖縄計算神経科学コース2007」	エリック・デ・シュッター (OIST) 銅谷賢治 (OIST) クラウス・シュティーフエル (OIST) ジェフ・ウィッケンズ (OIST)		OIST シーサイドハウス	講演者18名 (海外10, 日本8) フェー 10名 (海外8, 日本2) 参加者30名 (海外26, 日本4) 合計 58名 (海外44, 日本14)
3	2007年11月8日-9日	国際シンポジウム 「Salk-OIST 神経科学会合」	テレンス・セジョノウスキー (Salk) クラウス・シュティーフエル (OIST)		Salk (サンディエゴ, 米国)	講演者12名 (海外11, 日本1) 参加者26名 (海外22, 日本4) 合計38名 (海外33, 日本5)
4	2007年12月11日-14日	国際ワークショップ 「高性能コンピューティング」	銅谷賢治 (OIST) クラウス・シュティーフエル (OIST) エリック・デ・シュッター (OIST)		OIST シーサイドハウス	講演者13名 (海外10, 日本3) 参加者16名 (海外11, 日本5) 合計29名 (海外21, 日本8)
5	2008年1月28日- 2月2日	国際ワークショップ 「システムバイオロジーのグラフィカル表記法スーパーハッカソン」	北野宏明 (OIST) ニコラス・ル・ノベイル (EMBL-EBI) マイク・フッカ (Gal tech) 舟橋啓 (SBI & 慶応大学)		OIST シーサイドハウス	合計31名 (海外24, 日本7)
6	2008年3月8日-11日	国際ワークショップ 「MAPK経路のシステムバイオロジー」	北野宏明 (OIST) ステファン・ホーマン (ヨテボリ大学) ロジャー・ブレント (分子科学研究所)		OIST シーサイドハウス	講演者16名 (海外12, 日本4) 参加者19名 (海外15, 日本4) 合計35名 (海外27, 日本8)
7	2008年1月6日-11日	(共催ワークショップ) 国際ワークショップ 「OISTヒューマンフロンティアサイエンスプログラム」	銅谷賢治 (OIST) 伊佐正 (自然科学研究機構生理学研究所) ローレント・イティ (南カリフォルニア大学) ダグラス・ムノ (クィーンズ大学) ジャン・シーウェ (アムステルダムフリー大学)		OIST シーサイドハウス	講演者13名 (海外4, 日本9) 参加者16名 (海外9, 日本7) 合計29名 (海外13, 日本16)
8	2007年8月23-24日	協賛ワークショップ 「脳と心のメカニズム」	銅谷賢治 (OIST)		札幌	
9	2008年1月9-11日	協賛ワークショップ 「脳と心のメカニズム」	銅谷賢治 (OIST)		北海道ルスツリゾート	
10	2008年1月9-11日	協賛ワークショップ 「第2回OIST-韓国ワークショップ」	遠藤昌吾 (OIST)		慶北大学校 (韓国)	
11	2008年3月16-20日	「第9回ニューロペプチド Y 国際ミーティング」	内藤隆之 (OIST)		沖縄かりゆしビーチリゾート・オーシャンスパ	

<添付資料#11B-1>

ワークショップアンケート

<Inverse Problems Workshop>

日付: 2007年4月19日~4月23日

回答数 14 件

1. 講義内容

- ・ 優良(9)、良い(5)
- ・ 状況によりますが、基本的にとてもすばしかったです。プログラムのプランニング、講演者の全員が真実に事前準備に取り組みすばらしい発表でした。トピックの段階的なことや生物学的な見解での Inverse Problems、生物学的に強調するのはいくつか限界があったように思えます。しかしながら講演はとてもよく準備されていて有益かつ教育的でした。
- ・ 平均的。優良のところもあり。
- ・ ロバート・シンクレアさんはとても良かったです。
- ・ すべてのプレゼンテーションを楽しめました。とても教育的で刺激的でした。とても広い範囲でリサーチが進んでいる生物学と物理学、コンピューターサイエンスを学び、融合できた経験は初めてでした。
- ・ 講演者はとてもすばしかったのですが、伝統的な学際的講義理論は必要性のない重複表現ばかりが並び、難しいアイデアは添付レポートで後で聴講者が時間があるときに熟読してもらえば良かったと思われる。それぞれのトピックはペアで話をした方が良かったかもしれません。(例えば、聴衆者がレポートを読む前の入門講義と後のセミナー)
- ・ リサーチする上に当たっての問題点をあげてくれると良かったと思います。

2. キャンパス視察

- ・ 優良(7)、良い(4)、可(1)
- ・ よりよいプランニング、OISTのゴールや重要性、また、沖縄の興味深い歴史がよく説明されていてすばしかったです。
- ・ 参加しませんでした。すみません。
- ・ 参加できませんでした。
- ・ 城へ訪れて日本の歴史や文化に一部でも触れることができ、よい経験でした。
- ・ 学べる素晴らしい機会と、素晴らしい頭脳とのネットワーク。しかし、OIST主催者は彼らを取り巻く文化において文化的妥当性と移りやすい誇りの感情を付け加えた。感謝します。

3. 会場

- ・ 優良(13)、良い(1)
- ・ 他ではみることのできない高いランクでした。
- ・ エアコンがとてもよく効きすぎていて風邪を引いて帰宅しました。寒かったです。
- ・ レクチャーホールのスライドやプロジェクター、マイクなどもとても良かったです。
- ・ このワークショップは全ての面において出席者と講師をオーダーメイドのように世話をしてくれた。

4. 宿泊施設

- ・ 優良(11)、良い(3)
- ・ オーシャンビューのお部屋はパーフェクトでした。食事やダイニング施設もこれ以上のところはないでしょう。
- ・ 日本に住んでいますが、また新しい料理の仕方を知りました。毎日スタッフの方々には親切にして

戴きました。宿泊施設や食事もとてもよくて参加者はワークショップに専念することができたと思います。

5. 食事

- ・ 優良(12)、良い(2)

6. 事務局

- ・ 優良(13)、良い(1)
- ・ もしすべての会議がこのようにハイレベルに開催されていれば、すばらしいと思います。
- ・ 事務局の方々はランクAの仕事をされたと思います。
- ・ すべてのスタッフがすべてにおいてとてもすばしかったです。
- ・ OISTは他の機関にもモデルにされるべきであるすばらしい組織です。

7. 旅行手配

- ・ 優良(10)、良い(3)
- ・ すべて順調に進みました。
- ・ 旅行手配に関してとてもよい印象がありますが、関西からのみの旅行でしたので私の感想は評価に値するかは分かりません。
- ・ 今まで経験した中で一番スムーズに進んだ旅行プランでした。(沖縄への飛行機も含め)
- ・ これ以上、何も心配いらない手配は望みません。

8. 沖縄の印象

- ・ 優良(10)、良い(3)、可(1)
- ・ たくさんの事柄からの意見ですが、訪れる機会がもて、とても興味深いところでした。“Inverse Problems in Biology”のもっと発達した関連リサーチの構築があればまたぜひ戻ってきたいです。
- ・ OISTの周辺はとても感じがよいです。
- ・ すばらしいところだと思いました。数日間パラダイスにいるようでした。
- ・ 以前は沖縄を訪れてみようとも思っていませんでしたが、OISTがこれから永続的で前向きな沖縄の印象を与えてくれました。

9. 他のコメント

- ・ ロバート・シンクレア、アシスタントやその他関係者の方々には祝辞を受けるべきであるほどこのワークショップのすばらしいホストでした。
- ・ 沖縄滞在をとても満喫しました。皆さんのホスピタリティに感謝いたします。
- ・ ただ一つアドバイスすることがあれば、講義内容について改善があると思います。このミーティングの核がよく説明しきれておらず、リサーチ内容が沢山ありましたがあまりそれらの関連性がないように思えました。
- ・ 多様な学術分野の答弁が本当に興味深いワークショップでした。OISTのプロジェクトはチャレンジで、また、もうすでに習得しているものについてもとても感銘を受けました。これからもこの成功を維持されるよう願っております。
- ・ 日本での滞在は私にとってもためになり、またぜひ会議に出席したいです。その時はもっとコミュニケーションがとれるようにします!
- ・ もう少し疑問答弁があっても良かった。一講義あたりにQR休憩を入れるべきで、30-45分ほどあれば参加者が講演者がまだ熱が入っているときに質疑応答ができると思います。
- ・ 主催者の方々や事務局のスタッフにはこのような機会を私に与えてくださりとても感謝しています。OISTのプログラム、世界レベルのセンターへなるビジョンなどの成功を願っています。また、OISTへ戻ってこられるのを楽しみにしております。ぜひまた呼んでください。ありがとうございます!
- ・ 今回のトピックに直接関連のあるフィールドで働いているので、このワークショップは私のキャリアへの熱望を改革(変えること)することを私に確信させてくれました。Heg先生のプレゼンは私の物理学へのスタート点において基本となるべくものになるでしょう。この私の応用フィールドの部門への教化以降、代数学、生物学の多様な学術分野においてのリサーチに貢献できるよう、これからもこのようなすばらしい方々と出会い続けられると良いです。もしまたこのような素晴らしいワークショップに参加することができるなら、私の人生はとても良くなるでしょう。この機会を与えてくださった方々に感謝します。そしてこれからここでの経験を活かしていくことを約束します。
- ・ このようなすばらしいワークショップを開催して下さりどうも有り難うございます。

<添付資料 11B-2>

ワークショップアンケート

2007 年度沖縄計算神経科学コース
(OCNC 2007)

日付: 6月25日~7月13日

*台風の影響(フライト)をさけるため7月12日に終了しています。

1. コースの評価

1. 講義

- ・ とても良い(2)、全般的にすばらしい(2)、良い(1)、ナイス、エクセレント
- ・ たまに、もう少し背景などの情報があると便利だった。
- ・ いくつか難しすぎる点もあった。講演者はすばらしかった。
- ・ 興味深い、多様性があった。いくつかの計算講義は細かすぎて理解しがたかった(3)
- ・ 多様性が良かった(2)
- ・ トピックがいろいろな相違相の計算神経学をカバーしていて良かった(2)
- ・ 全般的に講義はとても良かった。ただ一つ提案するならば、全ての発表者は最初の半分は紹介に時間を取ってもらえると良かった。みんなそれぞれ違う国・経歴から来ているので。(何人かはそうしていましたが)
- ・ 良いトピック選択と、良いネットワークモデルのタイミングでした
- ・ 最初の週の数学的背景は簡単すぎた。

2. 時間

- ・ 講義が午前中にあるので良かった(2)
- ・ 3時間の講習に対して一回の休憩は少ない
- ・ 1日に1講義で十分です。
- ・ 3時間の講義は限界でしたがとても良かったです。特に3週間目は良かった。
- ・ エクセレント
- ・ 講義の間はラップトップを禁止し、Wifi は電源を切った方がよい。
- ・ すばらしい講義、トピック、時間でした(2)
- ・ 講演者が教訓的な感じで始まったのがよかった。
- ・ とても良い。3時間でちょうど良い。これ以上は長くしないで欲しい。

3. 生徒のプロジェクト

- ・ すばらしい経験でした。計算神経学を知る良い方法でした。
- ・ データやアイデアを準備したいので個々のプロジェクトがなんのか定義し最初の申し込みの段階で教えてくれると助かった。
- ・ プロジェクトも良い。チューターも良く、よい助けになった。ニューロンの経験者がいてくれて助かりました。
- ・ 生徒達はとてもやる気があり才能にあふれていた。良い選抜だったと思います。女性に対していい意味の差別があつてよいのでは?
- ・ プロジェクトのシチュエーションを理解するのに私たちは1週間かかりました。もし前もってインフォメーションがもらえたらとても助かります(2)
- ・ 台風のせいで全てが急がされていた気がします。でも内容が濃く、レベルも高かった。
- ・ ほとんどが自分だけで勉強しました。言葉が分からなかったです。
- ・ チューター連、ゲストスタッフは科学見解的にもう少し生徒達と関わって欲しかった。
- ・ もっと前もって固まった提案があればよかった。

2. 将来のコースについての提案

4. もし、また来年もこのようなコースが開催されるとすれば、同僚にも参加するよう勧めますか?

- ・ はい(32)、主題にもよりますが、
- ・ 計算神経学の最新のトピックを知る良い機会です。
- ・ いいえ。試験的背景にあった人たちには特に難しすぎた。
- ・ もし英語に自信があり、神経科学の知識がある人になら、勧めます。
- ・ もしアジア、ポスドク、に興味がある人になら、もちろん、勧めます。

5. もし宿泊が支給され、旅費のサポートがなくても申し込みますか?

- ・ はい(11)、いいえ(4)、たぶん(2)、たぶんいいえ、場所によります。
- ・ もし資金をどこかから得られるなら(4)
- ・ はい。でも金銭的余裕があるかは分かりませんが。
- ・ はい。沢山の生徒は支給される必要があるでしょう。
- ・ はい。でも旅費のサポートがこのコースのレベルを上げているのでは?もしなければ日本人ばかりになり魅力がなくなると思います。
- ・ 志願者に申請が通ったお知らせをコースが始まる前に送られてくるなら、はい。もし予約が早くとれば低料金のエアチケットで来られますから。
- ・ 宿泊が供給されるなら安いチケットを探す時間は十分でしょう。旅費のサポートは魅力的ですが。
- ・ もし OIST が 50%を負担してくれる、とかであれば、参加者は飛行機を決めるだけで、できると思います。
- ・ はい(生徒として)と、いいえ(チューターとして)。
- ・ スーパーバイザーによりますが。あとより少ない自主性を与えてくれるのであれば(4)

6. コースの長さは適切か?

- ・ はい(18)、2週間が良い(2)、短い方がよい(6)。
- ・ 短くあるべきではない。
- ・ 長い必要ない。でもこれより短くてもプロジェクトを終わらすことはできない。
- ・ プロジェクト的に短い。
- ・ 計算神経学の初心者としてはちょうど良い。
- ・ 少なくともプロジェクトのためには短いかもしれません。
- ・ 最初のうちは長いと思いましたが最後の方には短いと感じました(2)
- ・ コースを少し長くしては。(4週間に)
- ・ 長くはありますが、プロジェクトに費やしたり、沖縄を知るには理想的でした。
- ・ 3週間はプロジェクトを終わらすには少し短かった。

<添付資料#11B-3>

ワークショップアンケート

<Salk-OIST Joint Neuroscience Meeting>

日付: 2007年11月8日~11月9日

回答数 7件

1. 講義内容

- ・ 優良 (5), 良い (2)
- ・ 講義の時間はトピックもしっかり説明されていて ちょうど良い長さでした。講演者達でも少しディスカッションを設けた方がよいのでは (もちろんとてもよかったです)。
- ・ 講演、ディスカッションともにとても素晴らしかったです。

2. 会場

- ・ 優良 (3), 良い (4)

3. 宿泊施設

- ・ 優良 (4), 良い (2)
- ・ 使いませんでした。

4. 食事

- ・ 優良 (4), 良い (2)

5. 事務局

- ・ 優良 (3), 良い (4)

6. 他のコメント

- ・ 私にとって理論的にとても広がりのあるものでしたが (私の数学はまだ未発達ですので)、内容は興味深く均一によくプレゼンされていました。
- ・ 全ての参加者がミーティングを楽しめたと思います。ロケ地と時間がとても賢く選択されていて、完璧でした。ありがとうございます。
- ・ 前会議のリーディングは重要だと思います。参加者のために必要な量を供給するのは価値があると思います。
- ・ とてもためになる会議でした。

<添付資料#11B-4>

ワークショップアンケート

<HPC Workshop: Hardware & software for large-scale biological computing in the next decade>

日付: 2007年12月11日~12月14日

回答数 6件

1. 講義内容

- ・ 優良 (4), 良い (1)

2. キャンパス視察

- ・ 優良 (3), 良い (2)

3. 会場

- ・ 優良 (4), 可 (1)
- ・ 施設はとてもせまかったように思います。ワイヤレスはとても良かったです。

4. 宿泊施設

- ・ 優良 (2), 良い (2), 可 (1)
- ・ 宿泊施設は基本的なものしかなさすぎる。もう少しレベルアップさせた方が良い。

5. 食事

- ・ 優良 (3), 良い (1), 可 (1)
- ・ とても良かったです。

6. 事務局

- ・ 優良 (4), 可 (1)
- ・ 営業時間でないときはどうやって連絡を取って良いのかがいつも不明瞭だった。

7. 旅行手配

- ・ 優良 (3), 良い (2)

8. 沖縄の印象

- ・ 優良 (4), 良い (1)
- ・ いろいろな可能性があり、とても素晴らしいところです。

9. 他のコメント

- ・ すばらしいイベントでした。またすぐ戻ってきたいです。
- ・ 航空券の搭乗券を集めるという OIST の事務手続きをもっと分かりやすい方法でやって下さい。わかりづらく困惑しました。

<添付資料#11B-5>

ワークショップアンケート

<SBGN Super-Hackathon Workshop>

日付: 2008年1月28日~2月2日

回答数 17件

1. 講義内容

- ・ 優良 (13), 良い (4)
- ・ 良い話し合いでした。ディスカッションと実際のワーク (プログラミング) も。とても重要なことを十分な時間で話し合えました。
- ・ このフィールドへ新しく入ったものとして会議に参加しましたので直接はディスカッションには加わりませんでした。しかしながらこのディスカッションは現実的で会議は成功だったと強く感じます。
- ・ スケジュールとトピックはとても良かったです。
- ・ よい組織、ディスカッション、生産性のある会議でした。
- ・ Hackathon をこちらで扱ってくださりどうも有り難うございました。とても生産的で規格の同意を達成できたと思っています。
- ・ Iwebcam ブロードキャスティングを収容していればもっと良かったのですが。

2. 会場

- ・ 優良 (16), 良い (1)
- ・ 完璧なロケーション、環境、サービスでした。
- ・ OIST 施設は非常に良かったです。もっとよい天気の時にもたたく機会があることを願っています。
- ・ OIST はすばらしいミーティング場所だと思います。美しい建物、たくさんの電源プラグ、海の景色、そして無料の緑茶!
- ・ すばらしい施設です。

3. 宿泊施設

- ・ 優良 (9), 良い (7), 可 (1)
 - ・ OIST には泊まりませんでした。
 - ・ インターネットコネクションや WLAN がある部屋がホテルには少ししかありませんでした。私はお願いしたら変えてくれましたが他の方々には供給されなく私はラッキーでした。最初に私がいた部屋は道路側に面していてインターネットコネクションがありませんでした。変えてもらった後の部屋はパーフェクトでした。すばらしい日本食レストランがホテルにありましたが、時々英語でコミュニケーションを取るのが難しかったです (ほとんどのホテルのスタッフが英語を話していません)。
 - ・ 最初にあてられた部屋はインターネットアクセスがありませんでしたが、お部屋はとても良かったです (ほとんどの方がそうでした)。リザンは全ての部屋にワイヤレスアクセスをつけアップグレードするとより良くなると思います。
 - ・ ホテルの全ての部屋にインターネットコネクションがないことは少しがっかりでした。しかしながらロビーには無料ワイヤレスサービスがあるのは辛うじてバックアップの解決策ではありました。
- ※ 事務局注: 当初は全員がインターネット接続可能な部屋を予約していたが、ホテル手配ミスにより多くの参加者は接続不可の部屋に案内され、変更も出来なかった。

4. 食事

- ・ 優良 (12), 良い (5)
- ・ 食事は良かったです。もう少し本物の日本食がよかったです。

- ・ 食事はすばらしかったです。ただ日本に住んでいますのでよく食べていますが、もう少し“冒険的”でもよいので沖縄の優美さがあって良かったです。大体の会議出席者にとってはパーフェクトだったでしょう。
- ・ 良い&多様な食事が OIST で出ました。
- ・ ベジタリアン対応をしてくださり、どうも有り難うございました。
- ・ 一週間のワークショップでしたので外での食事があつたら私たちにとってはよい気分転換になったと思います。
- ・ ワークショップ施設内の食事はとても良かったです。しかし、ヨーロッパのテイストがしたので残念です。日本にいるときには普通の日本食を食べたいと私は思います。ただ、これは私の意見ですので他の方々はヨーロッパ、ウエスタン系でもよいという方もいらっしゃるでしょう。

5. 事務局

- ・ 優良 (12), 良い (4)
- ・ OIST のスタッフは非常に助けになりました。特にお部屋を変えたいと頼んだときはとてもスムーズに物事が運び感謝です。さらに、私が空港出発前に那覇で数時間過ごしたいと言うと色々手配をしてくださりとても助かりました。
- ・ 十分良かったのですが、私はヘルプが必要でなかったため判断できません。

6. 沖縄の印象

- ・ 優良 (8), 良い (7), 可 (1)
- ・ 私がいたときは沖縄の天気は良くありませんでしたが、沖縄滞在 (Super-Hackathon 関連の活動など) 楽しむ事ができました。
- ・ すばらしい亜熱帯気候の島です。
- ・ 天気が最悪でしたが OIST がどうこう出来ることではありませんね。もっと沖縄の魅力をみたかったのですが、これが会議の目的ではないですから。
- ・ 最寄りの ATM の機械が海外のカードを受け付けず、お金をおろすのに郵便局まで行くのが大変でした。
- ・ 十分な時間ではありませんでした。午後の小旅行何かかあれば良かったです。
- ・ 天気のことは文句言えません。
- ・ あまり沖縄をみた気がしませんでした。これは回答しかねます。空港からホテルの行き帰りだけでは沖縄の印象を語れません。

7. 他のコメント

- ・ このミーティングはいろいろな面から見てもとてもよく準備されていました。また OIST でミーティングをするのを楽しみにしています。
- ・ 主催者の方、OIST に感謝です。
- ・ 準備から空港に迎えに来てくださることまでして頂き、有り難うございました。次はもう少し空港で時間をとれると良いです。
- ・ ワークショップの間になんらかの外出できる催し物があれば良かったです。(今回は特に 1 週間と長かったので)
- ・ インターネットは私たちの仕事では必要不可欠になっているので、各参加者のホテルの部屋にインターネットコネクションがあることを確認していただけると良いかと思います。(事務局注: 当初は全員がインターネット接続可能な部屋を予約していたが、ホテル手配ミスにより一部参加者は接続不可の部屋に案内された。)

<添付資料#11B-6>

ワークショップアンケート

<Systems Biology of MAPK Pathways Workshop>

日付: 3月8日~3月11日

回答数 24 件

1. 講義内容

- ・ 優良 (10), 良い (14)
- ・ 時々飽きてしまいましたが、たくさんのお話がありました。PI の方のみが話すべきでアシスタント達が紹介した方が良かった。
- ・ 窮屈でした。自由時間があると良かったです (ビーチにてのディスカッションとか)。特に正午等に。
- ・ とても相互作用のあるプレゼンでした。
- ・ もう少し明快な講義を講演者に。より良いワークショップのゴールの設定を。(次のために早速始めて下さい。)
- ・ コントロールが改善される必要があります。
- ・ 興味深いトピックでした。トピックの持続性をもっと指摘されるべきで質疑はもっと構成されているべきでした。
- ・ 講演者はCIの方によってもっと厳しくされるべきだ。
- ・ もっと内容を組み立てた方が良い。皆さん発表者の時間に付き合わされるわけですから。
- ・ プレゼンやうまく組み立てのなっていないディスカッションが少なければ良かった。

2. 会場

- ・ 優良 (22), 良い (2)
- ・ こちらの組織にはとても感心しました。
- ・ 海外からの電話を受けることができなかったのが、出来ると良い。

3. 宿泊施設

- ・ 優良 (23), 良い (1)
- ・ とても効率的です。
- ・ 海外からの電話を受けることが出来ると良い。

4. 食事

- ・ 優良 (18), 良い (6)
- ・ ヨーロッパ風の料理より地元の方が食べたかった。
- ・ もっと日本食が食べたかった。
- ・ 食事はとても良かったです。種類も豊富でした。

5. 事務局

- ・ 優良 (22), 良い (2)
- ・ びっくりするぐらい良かったです。
- ・ とても助けになる方々でした。
- ・ スタッフの役に立つ行動には賞賛を与えたいです。

6. 沖縄の印象

- ・ 優良 (12), 良い (11), 可 (1)
- ・ 天気が全然良くなかったです。

- ・ この島の可能性はとても高いです。
- ・ 沖縄を訪れることができとても感謝しています。またぜひ戻ってきたいです。

7. 他のコメント

- ・ すばらしいワークショップでした。
- ・ とてもすばらしいミーティングをどうもありがとうございました！疲れましたが、いい意味で、です。
- ・ 少し遠いです。ヨーロッパからの直通便があるといいです。
- ・ せっかく遠い諸国から来ているのでこの島のことをもっと知りたかったです。観光をする時間をワークショップに入れてくれても良いのでは。
- ・ 主催者のイニシアチブ、このイベントを主催して下さいありがとうございます。ここに科学のコミュニティを集めることができます。リラックスできる環境に近く、これはアイデアなどを交換する最適のところです。
- ・ 科学的データや大きなアイデアについて話し合えるこのようなすばらしい機会を私たちは続ける必要があります。
- ・ ビーチでもっとリラックスする時間が欲しかった。
- ・ 残念ながら施設見学の時は天気が悪かったです。
- ・ 皆さんありがとう！

<添付資料#13 A>

連携大学院制度にて研究ユニットに受け入れた学生数

Neural Computation Un	8
Unit of Molecular	1
Neurobiology of	1
GO Cell Unit	1
	<hr/>
	10

The outline of the Graduate University Preparation Group 大学院大学設置準備グループの概要

(As of the end of March 2008)

1. Formation (設立)

- OIST "Graduate University Preparation Group" established Sept 2007 (OIST "大学院大学準備グループ"が2007年9月に設置)
 - Membership (メンバー) :
Dr. Brenner, Dr. Baughman
Drs. Arbuthnott, Doya, Takahashi, Yanagida, Wickens
Mr. Toya, Mr. Sagisaka
 - Role (役割) :
Review and recommendation of options for the new OIST university structure (沖縄新大学院大学の構造の選択肢についての提言や調査)

2. Activities (活動)

- Six meetings--Sep 3, Oct 22, Dec 3, Jan 31, and Mar 18
(9月3日、10月22日、12月3日、1月31日、3月18日の計6回開催)
- Discussion issues (検討事項)
 - ✓ School, Committee, Degree (研究科、専攻、学位)
 - ✓ Type of graduate program (大学院課程の種類)
 - ✓ Number of students (学生数)
 - ✓ Recruitment and selection of students (学生の採用と選定)
 - ✓ Human resources to nurture (育成する人材)
 - ✓ Curriculum development (カリキュラム開発)
 - ✓ Placement and appointment of teaching staff (教員の配置と採用)
 - ✓ Facility development (施設整備)
 - ✓ Model of curriculum (including an enrollment model) (カリキュラムのモデル (入学モデルを含む))
 - ✓ Collaboration with other academic institutions and industry (学術機関や産業界との連携)
 - ✓ Administrative organization (new functions required following the transition from research institution to university) (事務組織 (研究機関から大学院大学への移行に伴う新機能))
 - ✓ Budget considerations (予算額の検討)

<添付資料#18>

OIST Graduate Committees (大学院コミッティ)

PI Name (代表研究者氏名)	Neuroscience (神経科学)	Molecular Sciences (分子科学)	Mathematical & Computational Sciences (数学・計算科学)
Arbuthnott	X		X
Brenner		X*	X
DeSchutter	X		X*
Doya	X*		X
Endo	X	X	
Masai	X	X	
Maruyama	X	X	
Naito	X		
Price		X	
Samatey		X	
Sinclair			X
Stiefel	X		X
Takahashi	X		
Tonomura		X	
Tripp	X		
Wickens	X		X
Yanagida		X	
TOTAL	11	8	7

* Chair (専攻長)